

## エゾシカワーキンググループの経過報告・今後の予定

### 1. 令和4年度エゾシカWGの開催概要

- ・第1回会議 令和4年7月4日（月）斜里町産業会館  
※WG開催後、7月5日（火）午前に現地視察を実施
- ・第2回会議 令和4年11月30日（水）釧路市内  
※WG開催に先立ち、9月16日（金）にリモート会議を開催

### 2. 主な議事内容

令和4年度～令和5年度の捕獲事業計画に関して、特に、確認個体数が増加している知床岬地区での対策方針を中心に議論した。主な意見・指摘事項は以下のとおり。

#### ■捕獲事業計画について

- ・昨年度行われた航空カウント調査において、知床岬地区の確認頭数が大幅に増加※したことを受けて、この数年は十分な捕獲成果が上げられていない現状に照らし、目標を直近の調査で確認されたメス成獣頭数の半数（今シカ年度は56頭）と具体的に設定した上で、日没時銃猟を含む様々な手法を取り入れて捕獲を継続する。

※2019シカ年度：16.1頭/km<sup>2</sup>、2020シカ年度：58.2頭/km<sup>2</sup>、2021シカ年度：78.64頭/km<sup>2</sup>

- ・他の地区についても、北海道との情報共有も図りながら、地域差に応じて柔軟な体制を組むことが求められる。例えば、幌別一岩尾別地区においては、シャープシューティング等の実行に向けた様々な検討も進めるべき。

#### ■植生等モニタリングについて

- ・森林についてはシカの影響が相変わらず続いており、80年代の植生を目標として多様性の回復を目指すには、新たな手法や視点を取り入れることを含め、この先どういった適応策を講じていくかが重要である。
- ・高山帯については、一部で気候変動による影響と考えられる傾向も確認されていることから、今後もモニタリングを継続していくことが重要である。
- ・気象観測については、新たに観測を開始したデータを含め、既に観測を行っている関係機関とデータ共有が可能な体制づくりも重要である。

#### ■知床世界自然遺産地域管理計画の見直しについて

具体的に見直しを図るべき事項として、以下の意見が出された。

- ・IUCNからの指摘事項に関連した記述の追加
- ・WG/AP間の連携や、議論の結果を科学委員会でオーソライズする等の仕組み
- ・その他、管理方針に対する具体的な目標や基本方針に関する記述 など

### 3. 今後の予定（案）

令和5年度は2回程度の開催を予定。

- ・第1回会議 令和5年5～6月頃 斜里町又は羅臼町
- ・第2回会議 令和5年11～12月頃 釧路市

以上

## ヒグマワーキンググループの経過報告・今後の予定

### 1. 令和4年度ヒグマWGの開催概要

- ・第1回会議 令和4年8月3日（水）羅臼町コミュニティセンター  
※WG開催の前日、8月2日（火）午後に現地視察を実施
- ・第2回会議 令和4年12月15日（水）釧路地方合同庁舎会議室

### 2. 主な議事内容

「第2期知床半島ヒグマ管理計画」の年次計画となる「令和5年度知床半島ヒグマ管理計画アクションプラン（案）」の内容を中心に議論した。主な意見・指摘事項は以下のとおり。

#### ■第2期知床半島ヒグマ管理計画の進捗状況

- ・昨年度に比べて、利用者の問題行動に起因する危険事例は全体的に大きく減少した。地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の発生件数も、羅臼町ではゼロとなるなど、関係者の努力によって全体的に減少傾向にあり、良い方向に向かっている。
- ・ただし、利用者の撮影・観察による危険事例は依然として多く発生しており、自然公園法改正の効果など、今後の推移に注目していく。

#### ■2023（令和5）年度 知床半島ヒグマ管理計画アクションプラン（案）について

- ・具体的な方策が目標達成に繋がるか否か検証可能な形にしていくべきである。リザルトチェーンのような相関図を作成・活用しつつ、工夫と改善を繰り返しながら、次期アクションプランにつなげていくことが重要である。

#### ■第2期長期モニタリング計画について

- ・評価項目 F（評価対象は環境圧力・観光圧力）に紐付けられていたモニタリング項目のうち、知床半島ヒグマ管理計画に基づく管理状況全般を評価する内容は、「知床世界自然遺産管理計画に基づく管理ができていないか」に該当する評価項目として、評価項目 L を新設し、評価することとする。

#### ■DNAによる調査の継続について

- ・ヒグマの管理にあたって DNA データは非常に重要である。環境省、斜里町、羅臼町及び標津町が共同で、令和5年度に必要と想定される費用の確保に向けて調整中。
- ・DNAによる血縁関係の分析の結果、問題個体の約8割の出生地が明らかとなり、国立公園外の生まれが3分の2を占めていた。引き続き、遺産地域の内外での対策が重要である。

### 3. 今後の予定

令和5年度は2回程度の開催を予定。

### 4. その他報告事項

以上

## 海域ワーキンググループの経過報告・今後の予定

### 1 開催状況

令和4年（2022年）7月11日（月）第1回ワーキンググループ開催（羅臼町）

令和5年（2023年）2月3日（金）第2回ワーキンググループ開催（札幌市）

#### 〈第2回海域ワーキンググループの主な内容〉

◇ **知床世界自然遺産地域科学委員会海域ワーキンググループ設置要項の改正について**

海域ワーキンググループの運営の実態に合わせた要綱の改正を行った。

◇ **知床世界自然遺産地域多利用型統合的・海域管理計画定期報告書（案）について**

海域ワーキンググループが担当するモニタリング項目について、最新のデータに基づく評価を行い、内容を取りまとめた定期報告書について、検討を行った。

定期報告書は知床データセンター等において公開する。

◇ **第4期知床世界自然遺産地域多利用型統合的・海域管理計画の策定について**

第4期海域管理計画（案）について、第1回海域ワーキンググループ以降の変更箇所を報告の上、内容の検討を行った。（参考資料5：新旧対照表参照）

第4期海域管理計画は令和5年（2023年）3月の策定を予定しており、計画期間は令和5年4月1日から令和10年（2028年）3月31日までとしている。

◇ **知床世界自然遺産地域管理計画の見直しについて**

2009年策定の管理計画の見直しを行うため、今後の進め方について検討を行った。

### 2 今後の予定

○ 令和5年（2023年）7月頃 第1回ワーキンググループの開催（斜里町内）

長期モニタリング計画に係る評価について

第4期海域管理計画（英訳）の作成について

知床世界自然遺産地域管理計画の見直しについて

以上

## 河川工作物アドバイザー会議の経過報告・今後の予定

### 1 令和4年度（2022年度）河川工作物 AP 会議の開催状況

- (1) 第1回会議（令和4年7月26日～27日 羅臼町、斜里町（現地検討：羅臼川、ルシャ川））
- (2) 第2回会議（令和5年1月26日 札幌市）

第2回会議では、世界遺産委員会決議に係る保全状況報告、長期モニタリング、遺産地域管理計画の見直しについて確認、河川工作物の状況及び改良等について報告し議論を行った。

### 2 第44回世界遺産委員会決議に係る保全状況報告について

世界遺産委員会決議に係る保全状況報告について内容を確認した。

### 3 長期モニタリングについて

#### (1) 第2期長期モニタリング計画

第2期長期モニタリング計画、評価基準等一覧の河川に関わるモニタリング評価について内容を確認した。

#### (2) 長期モニタリング計画に基づく調査の実施

- ①モニタリング No. 16「河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所・産卵床数及び稚魚降下数」  
ルシャ川、テッパンベツ川、ルサ川において、4月下旬から7月上旬にかけて実施したカラフトマス・サケの稚魚降下数調査について結果を報告した。
- ②モニタリング No. 17「淡水魚類の生息状況、特に知床の淡水魚類相を特徴付けるオショロコマの生息状況（外来種侵入状況調査含む）」  
42河川の水温調査、8河川の採捕及び物理環境調査、16河川の環境DNA解析結果を報告した。

### 4 知床世界自然遺産地域管理計画の見直しについて

遺産地域管理計画の見直しの内容及び今後の進め方について確認した。

### 5 河川工作物について

#### (1) サシルイ川 ダム改良

今年度実施中の石組み魚道の状況と今後の点検方法等について報告した。

#### (2) ルシャ川 ダム改良

令和元年度に着手したダムの改良工事の進捗状況及び来年度の実施計画を確認。また、サケ（シロザケ）の産卵床数等調査の結果を報告した。

#### (3) オッカバケ川 ダム改良

令和2年度に完了した2号ダムの改良後の状況、サケ類の産卵環境調査の結果とHyperKANAKOによるシミュレーション結果を報告。また、河口部橋梁補修の内容について確認した。

#### (4) イワウベツ川 ダム改良

令和5年度から実施するダム改良工事についてスケジュール等を確認した。

#### (5) ルシャ川 河床路の状況

河床路の改良の経過と現在の状況について説明。また、今後のモニタリング項目を確認した。

#### (6) イワウベツ川 生物相復元の取り組み

しれとこ100平方メートル運動におけるサケ科魚類を中心とした生物相復元の取り組みを報告した。

#### (7) 羅臼川 モニタリング

河川工作物改良の取り組みと改良後における産卵床数のモニタリング結果等について報告した。

#### (8) ルサ川 河川改修

園地整備と連携して実施される河口部における河川改修の方向性及び今後の対応を確認した。

### 6 その他・今後の予定

河川工作物アドバイザー会議設置要綱を改正した。

令和5年度の河川工作物 AP 会議会議は1回目（現地検討開催）を7月、2回目を1月に開催予定。

以上

## 適正利用・エコツーリズムワーキンググループ及び検討会議の 経過報告・今後の予定

### 1. 経過報告

**<ワーキンググループ>** 第1回：令和4年8月26日、第2回：令和4年10月27日、  
第3回：令和5年2月1日開催

#### (1) 第2期長期モニタリング計画について

- ・科学委員会で整理している枠組みに基づき、モニタリング項目の位置づけや評価基準について見直しを行った。
- ・他のWGと合同で評価することになっている海鳥やヒグマの個体数の変動などについては、自然環境に係るモニタリングの評価は他のWGが担当し、本WGは利用に関する側面からの評価を担当することが適切とされた。
- ・特に評価項目F（評価対象は環境圧力・観光圧力）に紐付けられているモニタリング項目のうち、ヒグマWGと合同で評価する項目を整理した結果、「利用者の問題行動がヒグマの行動に与える影響」は引き続き評価項目Fの中で両WGで評価することとし、知床半島ヒグマ管理計画に基づく管理状況全般を評価する内容は、評価項目Lを新設しヒグマWGが評価することとした。
- ・以上、事務局の提示した案に合意した。なお、担当する「関係者等」の記述は確認をしてもらうよう留保した。

#### (2) 知床世界自然遺産地域管理計画の見直しについて

- ・世界遺産の価値、現状、課題はそれぞれ項目立てを別にして記載すべきであることや、遺産の保全管理に当たっては地域の参加を得て連携協働していくことを明確に示すこと等の意見があった。
- ・また、適正利用に係る項目について、安全面について言及する必要性があるという意見が出た。とされた。

**<検討会議>** 第1回：令和4年10月27日、第2回：令和5年2月1日開催

#### (1) 知床エコツーリズム戦略の運用状況

提案の承認・検討状況は以下のとおりである。

案件名	提案者	運用状況と課題
赤岩地区 昆布ツアー (羅臼昆布の歴史 は知床岬にあり -知床岬399番地 上陸ツアー-)	羅臼町 観光協会	半島先端部での文化資源を活用した教育目的のツアーとして2016年の検討会議で試行合意。5年間(2020年、2021年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため未実施)試行後、2021年度第1回検討会議において本格実施のためにいくつかの条件を整理し再度了解を得ることとされていた。 しかし、2022年度に本格実施に向けて再検討したところ継続的に行うには課題が多く対応が困難であると判断された。 そのため、第1回検討会議において、事業継続を断念し、当該実施部会を解散することが示された。 今回の提案・検討によって得られた結果や課題は、知床のエコツーリズムにおいて普遍的かつ重要なものとして評価・共有されることとなった。また将来的に新たな提案者が出た場合も、今回までの試行や実施条件などを尊重し検討を行うこととした。

## (2) 個別地域における取り組み状況と課題

### 1) 厳冬期の知床五湖エコツアー事業

- ・ 冬期閉鎖されていた道道知床公園線を除雪し、人数制限、ガイド同伴のうえで、静寂性を保って冬期の知床五湖をまわるツアーを実施している。
- ・ 2021年度は新型コロナウイルスの流行等を受け規模を縮小し、1月29日から3月14日までのうち41.5日間実施した。期間中利用者数は1,382人（うち外国人利用者数122人）であり、コロナ禍以前の平成30年と比較して約50%に留まった。
- ・ 2022年度はコロナ禍以前の日数に戻し、1月21日から3月21日までの60日間でツアーを実施中。

### 2) 知床五湖における利用調整地区制度の運用

- ・ 昨年度より継続して、植生保護期（レクチャーのみ）とヒグマ活動期（ガイド同行必須）の2つの制度で運用。利用調整期間（4/20～11/8）の地上遊歩道立入認定者数は46,333名（前年比98%）で、コロナ禍前と比較すると7割程度の入込状況となった。利用者の減少が複数年続いたことから、運営費や実施体制に課題が生じている。
- ・ 一方でヒグマ活動期（5/10～7/31）に注目すると、2021年度は7,199名（前年比171%、コロナ前の5割程度）、2022年度は10,511名（前年比145%）となり、徐々にコロナ禍前の数字に戻りつつある。
- ・ 地上遊歩道におけるヒグマ遭遇件数について、2022年度については9月末時点の集計で89件（ヒグマ活動期48件、植生保護期34件）、ツアー中止件数は9件と、ヒグマ活動期は過去2年と同程度であったが、植生保護期は9月以降ヒグマとの遭遇が頻発（33件で、9月としては制度開始以来最多）し、閉鎖の割合が昨年より大幅に高くなっている。一方で、2021～2022年度（9月末時点）ともに地上遊歩道での利用者とヒグマとの危険な遭遇事例はない。
- ・ 一湖湖面においてスイレン（外来種）の駆除について1年間のモニタリングの結果拡大していると判断し、関係各位の共同で対応することを決定し、今後調査や対応について検討予定。
- ・ 地上遊歩道の再整備について全区間が完成し、2022年度より供用を開始。

### 3) カムイワッカ地区における取り組み

#### (ア) カムイワッカ地区自動車利用適正化対策

- ・ 5月1日～5日および7月16日～7月18日の間、交通規制を行わず、既存路線バスに加え知床自然センター～知床五湖間を往復する臨時バスを増便（通常6往復+臨時便6往復）する乗り換え促進事業を実施した。バスの利用者は5月が336人（2021年度は4日間運行で156人）、7月が52人となった。両月ともに想定の混雑は発生しなかった。
- ・ 8月7日～16日の10日間、マイカー規制およびシャトルバスの運行を実施した。規制区間は例年同様の知床五湖～カムイワッカ間とした。期間中のバス乗車人数は3,548人（2021年度は5,500人）であった。
- ・ 9月30日～10月2日の3日間、野生動物とのあつれき対策、新たな観光コンテンツの創出、地域の二次交通網の検討などを目的として、ホロベツ地区（知床自然センター）からの車両規制とシャトルバス（ナショナルパークシャトル）の運行を実施した。3日間天気は安定していたが、バスの延べ乗車人数は1,780人（昨年同期比：72%）となった。

#### (イ) カムイワッカ湯の滝一の滝以奥の再利用検討事業

- ・ 2021年度にエコツーリズム検討会議において事業承認を受けた当事業は、試行事業の2年目

として、試行A（ガイド引率型）として15日間、試行B（個人利用型）として最大23日間を実施することを計画したが、4月23日に発生した海難事故を踏まえ、安全管理に関しより慎重に対処することが求められると判断し、今年度の事業の実施を見送ることとした。

- ・ただし、有料シャトルバス運行実験と連動し、閉鎖区内での目的性の高い自然体験コンテンツを確保するため、9/30～10/2の3日間に限り、現地補助員6名を配置して試行B個人利用型を実施することとし、3日間で85名（昨年度比56%）が参加した。
- ・斜里町から2022年11月に実施した落石調査の報告があり、下部区域も上部区域と同様の落石の危険性が一定程度あることを認知するに至り、これまでの下部区域における「自由利用」の維持は困難と説明。
- ・一方で2年間の試行事業による成果を踏まえ、一定の利用を維持するために両区域を統合して試行事業の対象区域として扱う案が提示され、総論については同意を得た。運用体制等の詳細については今後カムイワッカ部会で協議していくこととしている。
- ・結論として、利用人数は減るが、管理下の利用を徹底することにした。なお、制度の持続可能性については、利用料金を上げることで事業維持が可能か計算中。

#### 4) ウトロ海域におけるケイマフリをシンボルとした協働の保全活動

- ・2022年度は4月の知床遊覧船の事故を受け、観光船を利用した活動（大型観光船おーら号での海鳥解説トーク・小型観光船による海鳥サンセットクルーズ・各ホテルでの海鳥トーク）を自粛したが、海鳥WEEK特別展およびインスタライブの2項目を実施した。
- ・また、葛西臨海水族園と羽幌の海鳥センターが協働で行う海鳥イベント「つどえオロロ〜ン」講演会での講演や、知床財団主催で行われたイベント「知床サスティナブルウィーク」への出展等も実施し、普及啓発・情報発信の強化を図った。
- ・ケイマフリの確認個体数が303個体となって、今までになく回復した。その一方で営巣地へのシーカヤックのアクセスが増えているので、普及啓発や情報共有など関係者による対策の検討・共同実施に合意した。

#### 5) エコツアーリズム検討会議とエコツアーリズム戦略の今後

- ・エコツアー検討会議の設置と運用は、戦略本体・事務取扱要領など複雑になっているので今後整理する（なおその際に委員任命にかかる行政上必要な規約と会議体の機能や運営規程は別に整理する）。
- ・知床世界自然遺産地域管理計画の見直しとも連携し、エコツアーリズム戦略に関わる内容に改定や更新が行われた場合には、それらを踏まえてエコツアーリズム戦略内容の見直しを進める。
- ・エコツアーリズム戦略そのものの見直しは、WGおよび検討会議で議論した上で決定する。

## 2. 今後の予定

### <ワーキンググループ>

- ・遺産管理計画の見直しを主な議題として、引き続き年2回程度実施予定。

### <検討会議>

- ・知床エコツアーリズム戦略の運用をはじめとする知床世界自然遺産地域の適正な利用及びエコツアーリズムの推進を図るため、引き続き年2回程度実施予定。

### 【参考】適正利用・エコツーリズム検討会議の仕組み

- ・適正利用・エコツーリズムに関する検討にあたっては、専門家による意見交換の場であるワーキンググループのほか、地域の関係団体が参画する「適正利用・エコツーリズム部会」（地域連絡会議）と合同で2010年から「適正利用エコツーリズム検討会議」を合わせて開催している。
- ・検討会議は、「保全と利用に関する調整を管理主体関係者と専門家、地域関係者が同じ立場で検討する場」として、知床世界自然遺産地域管理計画および知床エコツーリズム戦略に基づき、世界遺産地域の資源の適正な利用及びエコツーリズムを含む観光の持続可能化を推進している。その基本原則は次のとおり。
  - 遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上
  - 世界の観光客への知床らしい良質な自然体験の提供
  - 持続可能な地域社会と経済の構築